

# 校長室だより

八代市立龍峯小学校  
校長 村嶋 博史



学校教育目標 「**学びを生かす子供**」

～自信と誇りをもった「きらりと輝く龍峯っ子」の育成～

R2,11,19

NO,30

## 「やってもらったからやるのではなく、 自分からやる」

11月19日(木)の始業前の時間に、「全校集会」を行いました。今回は、校長講話ということで、「やってもらったからやるのではなく、自分からやる」というタイトルで、校門の横に像として立っていて、みんなが毎日見ている「二宮金次郎」が書いたとされる話をもとに話をしました。今回も子供たちは、姿勢良く、私の方を見ながら、中にはうなずきながら話を聞く子供もいるなど、その態度は素晴らしいものでした。



### ～前段省略～

これに似た話を、二宮金次郎という江戸時代の人はお話に書いていますので、それを紹介します。学校の校門横にある像は、この二宮金次郎の像です。

ある日、金次郎さんが、使っていた鍬が壊れてしまったので、お隣の家に行って、鍬を貸してくださいとお願いをしたそうです。すると、隣の家のおじいさんはこう言いました。「今からうちの畑を耕して、野菜の種を蒔くところだから、種を巻き終えるまでは貸すことができないね」そう言われて金次郎さんはこんなふうに答えました。「自分は今、家に帰ったとしても、鍬が使えないからすることがありません。ですから、私がおじいさんの家の畑を耕してあげましょう。さあ、種をお渡しください。ついでに種蒔きまでして差し上げます。」金次郎さんはそう言って、おじいさんの家の畑を耕し、野菜の種を蒔いてあげました。そしてその後で、その鍬を借りて自分の家の仕事をしました。

自分の家の畑を耕し終わってから鍬を返しに行くと、おじいさんがこう言いました。「今度、鍬でも何でも困ったことがあれば何でも言いなさい。必ず用意してあげるよ。」

おじいさんがこう言ったのは、金次郎さんの行いに感激したからですね。金次郎さんは、鍬を借りる前にお仕事を手伝ったわけです。そうすると、おじいさんは、鍬を貸してもいいのに、金次郎さんが自分の家の畑を耕して種まで蒔いてくれた、親切でここまでやってくれた。と思うわけです。反対に、金次郎さんが鍬を借りて使って、そのお礼ですと言って、別の日におじいさんの家の畑を耕したとしても、鍬を貸してあげたお礼だから当たり前かなと思ってしまうでしょう。このように、同じことをするにしても、自分から先にすると、相手の人の気持ちが大きく変わることがあります。

だれかに何かをやってもらったから何かをしてあげるというのではなく、何かをしてもらう前に自分からしてあげる、誰かがする前に自分がする。そういうことを心がけていると、同じことをするにしても、相手の人がさらに喜んでくれます。

そして、そのことは結局は自分をよく思ってくれることになり、自分のためにもなるのではないのでしょうか。

この話をした朝、5年生の子供が、植え替えした花壇に自主的に水やりをしていた行為が、まさに「自分から率先してやる」行為でしたので、全校児童に紹介し賞賛しました。